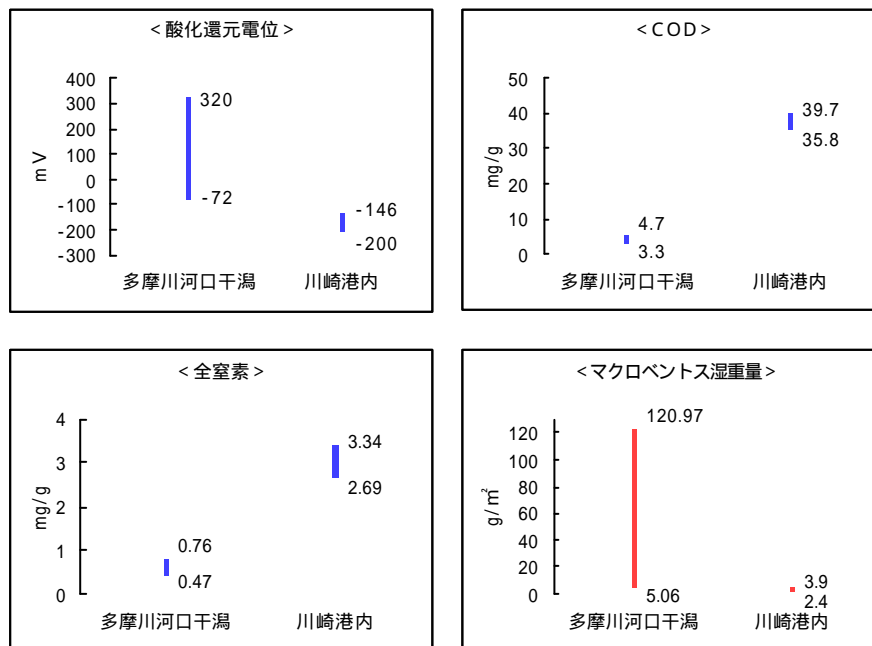


## 5 考察

### 5.1 マクロベントス生息環境について

底質性状調査の結果から、多摩川河口干潟の底質は主に砂質分および泥質分で構成されていることがわかりました。概ね酸化状態にあり、極端な有機汚濁や富栄養化の傾向はみられず、マクロベントスの生息環境としては良好な状況にあるものと考えられます。マクロベントス調査の結果からも、多様な種類の生物が数多く生息していることが確認され、生息環境が良好であることが示唆されます。一部、堤防寄りの地点で種類数や個体数が少ない傾向がみられましたが、この場所は地盤高が高く干潮時に長時間干出する場所であり、ここにはそのような長時間の干出に耐えられる生物しか生息することができないため、種類数や個体数が少なくなっているものと考えられます。

干潟環境の大きな特徴として、潮汐の干満があること、干出時に底質が長時間大気と接触することなどがあげられます。多摩川河口干潟の底質環境と水深の深い川崎港内の底質環境とを比較してみると、多摩川河口干潟の底質は川崎港内に比べてより酸化状態にあり、有機物や栄養塩の量が少ないことがわかります（図 - 5.1）。これは潮汐の干満作用により底質中の間隙水が頻繁に交換され、また、底質が大気と接触することにより好氣的条件が維持され、底質中に生息するバクテリアなどの微生物が有機物を活発に分解するためです。生息するマクロベントスの量も川崎港内に比べて多く、多摩川河口干潟がマクロベントスの生息に適した良好な場所になっていることがうかがえます。



注) 多摩川河口干潟は平成12年度調査の4地点、川崎港内は平成12年9月に調査を実施した京浜運河扇町、扇島沖の2地点のデータ範囲を示します。

図 - 5.1 多摩川河口干潟と川崎港内の底質環境の比較